



大字探検 西高橋・打越新田 編 第27話

菅谷豆腐店

作りたてのお豆腐や油揚げを購入できます。

高橋麺'Z'倶楽部

男の生きがいサロン。旧高橋小でそば打ちをしています。

植木酒店

創業大正5年。食品や日用品を取り扱っています。

行事神社

亀の子塚古墳の上に本殿が建っています。

打越新田

土地改良整備事業は平成30年度完了予定です。

■西高橋・打越新田DATA

- ・面積:西高橋 約4.921km²
打越新田 約0.286km²
- ・世帯数:342戸(平成27年10月1日現在)
- ・人口:1,069人(平成27年10月1日現在)

大字探検 稲毛田 編 第28話

崇真寺

昔話に登場する犬切不動尊は有名です。

シルバー人材センター

会員の皆さんの生きがいづくりの場になっています。

早川魚店

高齢者の見守りも兼ねた移動販売が好評です。

八雲神社

地域の皆さんに愛されている稲毛田の鎮守です。

梨畑

旬真っ盛りの梨畑。

富士山自然公園

展望台からの見晴らしは抜群です。

■稲毛田DATA

- ・面積:約4.988km²
- ・世帯数:471戸(平成27年10月1日現在)
- ・人口:1,318人(平成27年10月1日現在)

県少年の主張大会 発表大会



8月25日(木)、第39回県少年の主張発表芳賀地区大会が真岡市青年女性会館で行われました。芳賀中学校からは、3年生の岡田奈南さんが代表として選ばれ、見事、最優秀賞を受賞しました。岡田さんは、9月24日(土)に行われた県大会にも出場し、奨励賞を受賞しました。

すべての人が輝く社会に

芳賀中学校 岡田 奈南

皆さんは、身体が不自由な人、精神的に障がいをもっている人を見かけたとき、どんなふう思うでしょうか。「かわいそう。」「そんな姿見たくない。」などと思う人はいませんか。そう思うのは、大きな間違いです。

私の兄は、心臓に不整脈をかかえています。日常生活に支障はありません。しかし、皆と同じ学習についていくことは難しく、小学校から特別支援の学級に入っていました。最初はそんな兄を恥ずかしく思い、隠していました。兄が特別支援学級に入っていることで、私自身が友達などから気を使われたり、「かわいそう。」と思われたりするのがとても嫌だったからです。ですから、友達に、「兄弟いるの?」「高校どこ行ってるの?」などと聞かれたときは、言葉を濁したり、会話から抜けたりはしていました。私自身家の中では普通に接しているけれど、兄が特別支援学級に入っていることには、あまり触れたくありませんでした。たった一人の大切な兄なのに、一方で、特別支援学級に入っていることに偏見をもっていたのかもしれない。

このような私を大きく変える出来事がありました。

先日、私は父と、兄が通う特別支援学校の運動会に行きました。今まで兄の運動会など全く関心がなかったのですが、父に「最後の運動会だよ。」と誘われ、行ってみることにしました。特別支援学校では、小学部から高等部までの児童生徒と一緒に運動会をします。決して広くはない運動場でお互いを支え合い、譲り合って競技が行われていました。私もそこで、小学部の徒競走を見て、大きな感動を覚えました。普通に走ることができずの子は少なく、車いすを押してもらったり、走るコースから外れないように、手をつないで誘導されながら走ったりする子が大半でした。それでもどの子も笑顔でゴールします。また、見ている先生や保護者、そして残りの生徒は皆一丸となって応援しています。身体が不自由で歩くこともままならない子が走るのには、本当に大変なことですが、でも私は、どんなに遅くても子どもたちの一生懸命さに感動せずにはいられません。その場にいる私たちには、障がいがあるとかないとかは全く関係がありません。ただ一生懸命走る子どもたちと応援する人たちに感動したのです。

この光景を見ながら、私は自分が恥ずかしくなりました。少なからず、障がい

があることを特別視したこと。自分が健全であることを当たり前と思い、人の気持ちを気遣おうとしなかったこと。自分はまだ頑張れるはずなのに、いいかげんに終わってしまったこと。そんなことを考えていました。

現在、兄は高校三年生です。来年の就職に向けて体験学習に行くなど、頑張っています。しかし、両親には心配な様子が見られます。まだまだ、障がいをもった人は普通に受け入れられない社会だからです。障がいを受け入れてくれる職場があるのか。就職できても、一緒に働く人たちがうまくやっていけるのか。働くことが過度なストレスにならないか。いろいろな心配があるようです。

この現状を変えていかなければなりません。障がいがある人もない人もお互いに助け合い、共に生きる社会をつくるのです。私たちはいずれ年をとり、支えが必要になります。また、突然事故にあい、身体が不自由になるかもしれません。その時は誰かに助けてもらわなくてはなりません。今は、今だけではなく未来に向けて、誰もが生活しやすい社会にするため、力を尽くさなければなりません。その第一歩として私は、どんな人も尊重し、自分ができることを精一杯頑張りたいです。

運動会で見た子どもたちの笑顔がこれからも輝き続けることを願い、「すべての人がすばらしいことを忘れないで。」この言葉を皆さんに贈ります。